

FIELDWORK

学外研修 | 心理学科

社会を支えるさまざまな心理の現場を訪れ、
心理学にとって必要な人とかかわりを学びます。
社会と実際にかかわることで、理論の大切さと
現実とのギャップを体験し、学びをさらに深めます。

体験を通じて 人の心と社会とつながる



PICKUP:01

震災の記録から人々の思いを読み取る

当時の記録を見て共感することで、何ができるかを考えます。

PROFESSOR'S VOICE

災害による傷つきと、 人々の回復力を体感する

1995年1月17日に発生し、6400人以上が犠牲となった阪神・淡路大震災。それにより親を亡くした子どもたちをサポートしてきた「神戸レインボーハウス」と、震災の経験と教訓を継承し、防災・減災の実現のために必要な情報を発信する施設「人と防災未来センター」を訪れました。人の痛みに触れ、安心できる場と互いに思いやる関係により、人が前を向いて生きていくプロセスを体感することは、心理

を学ぶ学生にとって最も基本的な素養となります。また、人間の力では発生を防ぐことができない自然災害について、被害を最小限にするために、自分たちは何ができるのかを考えることも大切にしています。



専門分野／
臨床心理学、司法・犯罪心理学
今井 由樹子 准教授



STUDENT'S VOICE

震災を機に生まれた支援と、命を守る術を知る

「神戸レインボーハウス」では、さまざまな原因で親を亡くした子どもたちが自由に遊び、対話できるよう工夫された施設内を見学しました。印象深いのは、子どもの心を先入観で解釈することなく、今は何も話したくないのでは？と想像力を働かせて行動するというスタッフの方のお話。深い傷を抱えた子どもの立場で考えることが、心のケアにつながっていると感じました。

同日に訪れた「人と防災未来センター」では、音や映像で震災を追体験したり、被災者の方のお話を直接聞く機会も。自然災害が及ぼす街や人への影響を体感し、実体験にもとづいた命を守るための対策も学ぶことができました。



心理学科 3年
(奈良大学附属高等学校出身)
臼井 孝太郎さん



その他のフィールドワーク

PICKUP:02 | コリアタウン探索を通じて異文化適応を学ぶ



コリアタウンを歩き、 異文化について考える

約700店舗が軒を連ねる鶴橋駅界隈の「国際市場」から、約120店舗が並ぶ御幸通商店街・通称コリアタウンの一带を、NPO法人コリアNGOセンターの方のご案内で探索。まちなみの特徴やその背景にある複雑な歴史、多くのコリアンが暮らして商いをする理由、近年のまちの変化や食文化まで幅広いお話を聞きながら現地を歩き、「多文化共生」「異文化適応」について考える力を身につけます。

- 小学生を対象とした地域臨床実践
- 法的配慮にもとづく対人援助について弁護士との意見交換
- 放課後等デイサービスの見学研修
- 精神疾患の家族的看護の施設見学